

美術研究支援情報資源の集中と分散

フランスにおける美術館・図書館・情報システムの特質をめぐって[その1]

波多野宏之

はじめに

筆者がフランスの図書館・情報システムに関心をもつきっかけとなったのは、1976年、当時パリ市行政図書館(Bibliothèque administrative de la Ville de Paris)の館長であった Michel Roussier 氏の来日講演であり、これを機に日仏図書館学会(現、日仏図書館情報学会)に入会したことであった。その後20年、国立ジョルジュ・ポンピドー芸術文化センター公共情報図書館(Bibliothèque publique d'information du Centre national d'art et de culture Georges Pompidou [B. P.I.])での10ヵ月の研修を挟んで^[1]、一貫してフランス的なものに関心を持ち続けてきた^[2]。そしてこの度、平成七年度文部省在外研究生として、再度、とりわけ今回は美術関連の図書館・情報システムの実際をつぶさにみることができた。本稿では、フランスの図書館・情報システム一般の歴史と現状を背景としながら、美術研究支援のための情報資源をめぐって、美術館や関連する諸機関における情報資料の配置とその取り扱いのフランス的特質を明らかにし、もってわが国のアート・ドキュメンテーションの進展の参考としたい。フランスの図書館一般や美術館一般に関する日本語文献はかなりの数にのぼるが、両者の比較及び美術分野の図書館、情報システムの特異性については、数えるほどしかないのが現状だからである^[3]。

拙い論稿であるが、B. P.I. 館長として同館への研修受け入れの労をとられ、その後、筆者がメディアテークや画像ドキュメンテーション、ひいてはアート・ドキュメンテーションに改めてとりくむきっかけを与えていただいた故 René Fillet 氏に本稿を捧げたい。同氏は1996年8月25日に亡くなられた。

1. 美術研究情報資源、美術館行政の集中と分散

美術作品やその写真資料、研究のための文献資料、またこれらをさまざまな態様で蓄積、公開し、また検索し、研究利用するための情報システム、ひいてはその社会文化的な装置としての美術館が、その機能を巡っていまわが国でも問い直され、「全国文化財情報システム」の構築も始まりつつある^[4]。これらの仕組みの在り方を改めて問い直し、より本質的かつ実効的な美術情報政策の確立とその行政の円滑な執行体制が求められている。例えば、美術館の所蔵作品のデータベースの構築や情報資料室の公開がどのような歴史的かつ文化的コンテキストのなかでよりよく成り立ちうるのか、を再考してみること、そしてその際に、資源の集積や行政の仕組みが一所集中的に行われるか、多所分散的に行われるか、またその際にいかに相互調整されるかがひとつの重要なポイントとなってくる。その端的な例として、一国の納本図書館としての国立図書館があるように、国立美術図書館がありうるか、と

いった論議が内外で行われており⁵⁾、国情や美術館の形成の経緯、また情報資料に対する認識のありようなどによって様々な対応があり得、また実際に様々なかたちでの現実がある。西欧諸国のなかで、米国が分散型であるのに対して、例えばフランスは中央集中型であるという認識がある。そこで、本稿ではフランスのいくつかの機関やシステムの実態を明らかにし、また、1980年代に行われた地方分権(Décentralisation)、地方分散(Dé-concentration)の結果をも参照しつつ、現時点における集中と分散の状況を批判的に提示することとしたい。

2. フランスの図書館・美術館行政

フランスの国立図書館、国立美術館は文化省に属している。前者は図書・読書局(Direction du livre et de la lecture)、後者はフランス美術館局

fig. 1
文化省組織図
[出典: *Organigramme institutionnel, Ministère de la Culture, Service documentation, Département de l'information et de la communication, janvier 1996*]

Organigramme du Ministère de la culture
janvier 1996



(Direction des musées de France、以下、DMFと略記)の所管にかかる^[6]。ただし、fig.1に見るように前者におけるポンピドーセンター公共情報図書館(Bibliothèque publique d'information du Centre Georges Pompidou [B. P. I.])やフランス国立図書館(Bibliothèque nationale de France 以下、BNFと略記)、後者におけるモロー美術館、ルーヴル美術館などは、行政的公施設(Etablissement public administratif)^[7]として、一定の独立した位置を保っている。また、前者における国立図書センター(Centre national du livre)^[8]、後者における国立美術館連合(Réunion des musées nationaux、以下、RMNと略記)のように各機関を横断して一定の業務を行い、または側面から援助する機構が存在していることも共通の特色である。美術の関連分野では、ほかにフランス文書館局(Direction des archives de France)、文化財局(Direction du patrimoine)、総合行政局(Direction de l'administration générale)、造形美術代表部(Délégation aux arts plastiques)などがあり、例えば文化財局には、同様に国立歴史遺産・遺跡金庫(Caisse nationale des monuments historiques et des sites)といった機構が置かれて、出版等の普及活動を担っている。公施設である国立高等文化財学院(Ecole nationale supérieure du patrimoine)が総合行政局管轄下にあるのは、複数の局にかかわるものだからである。

地方レベルでは、図書・読書局傘下に96県立貸出図書館[Bibliothèques départementales de prêt]^[9]、3,015市立図書館^[10](うち54指定市立図書館[Bibliothèques classées])があるように、33指定美術館(Musées classées)、1,000認定美術館(Musées contrôlés)^[11]などがある。指定美術館の源は、いうまでもなくフランス革命にあり、貴族、教会の財産を公有のものとする際に、革命IX年実月14日(1801年9月1日)の政令にあるように、地方のコレクションを収集すると同時に国家のコレクションをも受託するものとして設置され、その管理には国家公務員が配属されるなど、極めて中央集権的な行政組織となっている。

現在、美術館局に属する国立美術館は34館である^[12]。

3. 美術館及び関係機関の図書館・資料センター

ここまで、図書館と美術館を二つの異なる分野としてみてきたが、美術分野の図書館という場合には、美術館の中にある図書館、すなわち、美術館図書館(室)を考えなければならない。さらに、美術館のなかの情報資料関係の部署としては他に、資料室(センター)(ドキュマンタシオン)([Centre de] documentation)、写真室(photothèque)、アルシーヴ(archives)そして場合によっては情報検索部門が別個に設けられていることがある。また、行政機関や教育機関にもその目的に対応した図書館(室)等が設置される。ところで、これらの美術館等における資料・情報部門の役割は、二つある。第一は美術館学芸員等内部スタッフのためのもの。第二は、その対象にレベルの差こそあれ、外部の人々のためのもの。そして多くは、その双方を兼ねるものである。これらの実態については、フランス図書館員協会(Association

des bibliothécaires français ABF) が刊行した *Les Sources de l'histoire de l'art en France: répertoire des bibliothèques, centres de documentation et ressources documentaires en art, architecture et archéologie* ^[13] に詳しい。また、同協会の機関誌 *Bulletin d'information de l'Association des bibliothécaires français* の1995年の特集 ^[14] が主要機関の現状や今後の展望について詳述している。これらの中で、フランス美術館局及び関連の局管下における主要機関、さらに大学、国立図書館等を表1にあげた。これらの設置の状況とその運営の実態を鳥瞰すると、フランスにおける美術関係資料の整備状況が概略把握できるからである。以下、本稿(その1)では、筆者が訪問したもの(うち1)、2)、3)、12)、17)、18)、19)、20)をとりあげ、それらを比較対照し、またそれらを一連の情報源系として捉え得るか否かなど、図書資料の集中と分散について考察する。

表1 美術関連主要図書館・資料室^[15]

1	国立美術館図書館・アルシーヴ	Bibliothèque et archives des musées nationaux Palais du Louvre, Pavillon des Arts 75001 Paris
2	フランス美術館局資料センター	Centre de documentation de la Direction des musées de France 6, rue des Pyramides 75041 Paris cedex 01
3	フランス美術館研究 ラボラトリー資料センター	Centre de documentation du Laboratoire de recherche des musées de France Palais du Louvre, 6, quai des Tuileries 75041 Paris cedex 01
4	フランス美術館修復部 資料室	Service de restauration des musées de France 全国6組織
5	ルーヴル美術館絵画部 資料センター	Centre de documentation du Département des peintures du Musées du Louvre Palais du Louvre, 34-36, quai du Louvre 75058 Paris cedex 01
6	ルーヴル美術館版画・ 素描部資料センター	Centre de documentation du Département des arts graphiques du Musées du Louvre Pavillon de Flore, 1er étage 75041 Paris cedex 01
7	ルーヴル美術館工芸部 資料センター	Centre de documentation du Département des objets d'arts du Musées du Louvre 34/36 quai du Louvre 75058 Paris cedex 01
8	ルーヴル美術館彫刻部 資料センター	Centre de documentation du Département des sculptures du Musées du Louvre Palais du Louvre 6, quai des Tuileries 75058 Paris cedex 01
9	ルーヴル美術館古代 エジプト部資料室	Centre de documentation du Département des antiquités égyptiennes du Musées du Louvre 34-36 quai du Louvre 75058 Paris cedex 01
10	ルーヴル美術館文化部 メディアテーク	Médiathèque du Service culturel du Musée du Louvre 34-36, quai du Louvre 75058 Paris cedex 01
11	国立美術館連合写真部	Agence photographique de la Réunion des musées nationaux 10, rue de l'Abbaye 75006 Paris
12	ルーヴル学院図書館	Bibliothèque de l'Ecole du Louvre 34, quai du Louvre 75041 Paris cedex 01
13	ルーヴル学院フォトテーク	Photothèque de l'Ecole du Louvre 34, quai du Louvre 75041 Paris cedex 01
14	オルセー美術館図書館	Bibliothèque du Musée d'Orsay 1, place Henri de Montherlant 75007 Paris
15	オルセー美術館資料センター	Centre de documentation du Musée d'Orsay 1, place Henri de Montherlant 75007 Paris
16	国立造形芸術センター/ 造形芸術代表部資料センター	Centre de documentation du Centre national des arts plastiques et de la Délégation aux arts plastiques 27, avenue de l'Opéra 75001 Paris
17	国立文化財学院資料センター	Centre de documentation de l'Ecole nationale du patrimoine 117, boulevard Saint Germain 75006 Paris
18	パリ大学ジャック・ドゥー ッセ美術考古学図書館	Bibliothèque d'art et d'archéologie de l'Université de Paris Fondation Jacques Doucet 58, rue de Richelieu 75048 Paris cedex 02
19	フランス国立図書館版画・ 写真部	Département des estampes et de la photographie 58, rue de Richelieu 75048 Paris cedex 02
20	アルスナル図書館	Bibliothèque de l'Arsenal 1, rue de Sully 75004 Paris

4.美術館局の文献資料関連の情報資源

1) 国立美術館図書館・アルシーヴ

美術館局(fig. 2)の財務・法務・総務部(Département des affaires financières, juridiques et générales)のもとに図書館・アルシーヴ課がある。国立美術館の図書館行政を統括する部署で、課長は国立美術館図書館・アルシーヴ館長を兼ねている。なお、同館は国立美術館中央図書館(Bibliothèque centrale des musées nationaux)とも呼ばれるので以下、BCM Nと略記する。BCM Nの行政上、及び事務連絡上の住所は、局及び部のある6, rue des Pyramides 75041 Paris Cedex 01である。一方、BCM Nは、ルーヴル美術館クール・カレのパヴィヨン・デ・ザール(Palais du Louvre, Pavillon des arts, 75001 Paris)にある。このBCM Nの前身であるルーヴルの図書館は、1794年、芸術院(Conservatoire des arts)の構想にかかり、1804年以降ルーヴル総館長となった Vivant Denon が最初の蔵書を購入したといわれる。1848年に館長に就任した Philippe-Auguste Jeanron が図書館・アルシーヴ管理部門を設置し、管理官として Ernest Koloff を任命した。図書館は幾度か名称を変更するが、Bibliothèque royale は、もと Thuillerie にあり、パリ・コミュンに際して1871年に焼失した。しかし、管理部においた図書は残り、その後1920年代に現在の場所、クール・カレのパヴィヨン・デ・ザールに移り、1926年以降、体系的な整備ができて今日に至っている。現在、BCM Nは、別記表2のように23館の図書館(室)を含む図書館ネットワークの中心の役割を担っている^[16]。組織は fig. 3 に見るように館長のもとに6部門があり、非常勤を含め総計31名からなる。その機能は次の3点に集約できる。

- ・集中収集/整理
- ・図書・雑誌の閲覧サービス
- ・アルシーヴ

表2 フランス美術館局図書館・アルシーヴ課(中央図書館)管轄下の美術館図書館及びその1994年度中央図書館経由購入図書冊数

Musée des arts d'Afrique et d'Océanie	33
Musée des arts et traditions populaires	87
Château de Blérancour, Musée de la coopération franco américaine	12
Musée message biblique Marc Chagall, Nice	7
Château Musée de Compiègne	34
Musée du moyen-age-thermes de Cluny	54
Musée Magnin, Dijon	15
Château d'Ecouen Musée de la Renaissance	70
Musée de préhistoire, Les Eyzies de Tayac	10
Château Musée de Fontainebleau	37
Musée des arts asiatiques-Guimet	82
Laboratoire de recherche des musées de France	7
Musée ADRIEN Dubouché, Limoges	29
Château Musée de Malmaison de de Bois-Préau	32
Musée des monuments français	50
Musée de l'Orangerie des Tuileries	23
Château Musée de Pau	22
Musée Picasso	35
Musée des Granges de Port-Royal	20
Château de Saint-Germain-en-Laye Musée des antiquités nationales	99
Musée de céramique, Sèvres	46
Restauration des peintures, Versailles	34
Château-Musées de Versailles et de Trianon	21

[出典:Ministère de la culture. Direction des musées de France. Rapport d'activité 1994, [1996]]

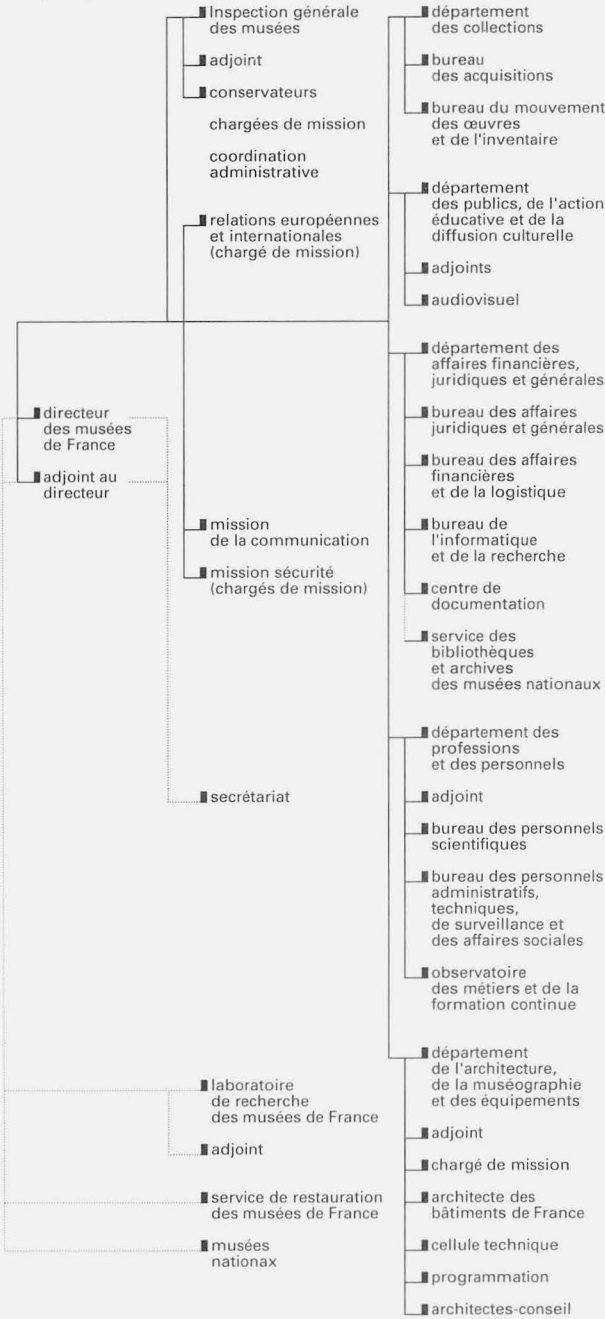
収集対象は、資料種別では、一般図書の他、逐次刊行物、特に美術館紀要・年報類、美術館カタログ、展覧会カタログ、売り立て目録の類であり、主題分野では古典・古代から19世紀に至る西洋美術史のほか、所管する美術館の関連分野である極東美術(ギメ美術館)、民族学(民衆芸術・伝統博物館)、フランス古代(サン=ジェルマン=アン=レ国立古代博物館、エジプト考古学(ルーヴル美術館=BCMN)、中近東考古学(ルーヴル美術館=BCMN)などに及ぶ。また、芸術家、美術史家の書簡・自筆原稿等の収集にも留意している。

1994年の収集予算は、1,556,000フラン(約31,120,000円)、うちDMF予算1,350,000フラン(約27,000,000円)のほか、RMNからの割り当て206,000フラン(約4,120,000円)があることに注目したい。これらの予算の館別の執行内訳は、BCMN609,000フラン(約12,180,000円)に対してその他の美術館974,000フラン(約19,480,000円)であり、予算執行面からみると、

fig. 2
フランス美術館局組織図
[出典:Ministère de la culture.
Direction des musées de
France. *Rapport d'activité*
1994, [1996]]

fig. 3
国立美術館図書館・アルシーヴ職員
配置図
[出典:国立美術館図書館・アルシー
ヴ提供 1996年現在]

Organigramme de la Direction des musées de France



Personnels de la Bibliothèque et des archives des musées nationaux



BCMNは自館分の1.5倍の業務を他館のために行っていることになる。なお、選書は基本的にルーヴル美術館の各部、及び他館からの希望リストに基づき、また中央図書館独自に書誌・事典類を中心に選定し、各館からのものを分野等で一括し、然るべき書店等に発注する。ちなみに、同年の購入冊数1,797冊のうち、BCMNに938冊、他の館へは表2のように配分されている。

こうして発注された図書は一旦 BCMN に納品され、一括整理される。1993年1月1日よりオンライン入力を開始し、現在約10,000件が入力済みである。寄贈図書を合わせ年間約2,000件が入力される。

ここで、寄贈(より正確には受贈)資料についていえば、資料交換には大変力を入れ、寄贈担当と逐次刊行物担当のペアがマニュアル管理ながら、綿密にコントロールしており、内外の500以上の機関と資料交換を行い(定期的に資料を送付してくる機関は約400)、1994年には1,700冊を受贈している。他機関への寄贈にあたっては、RMNの刊行物がそのためにまわされてくる^[17]。また、雑誌等の複本のリストを作成するなどして、資料交換館に配布し、資料の有効活用をはかるなどしている^[18]。オンライン検索の他、カード出力を行っており、他館所蔵分は所蔵先を記したうえ、色カードにプリントされ、BCMN分と混配される。すなわち、中央図書館のカード目録は24館の総合目録となっている。データベース・ソフトウェアは、フランスで普及している Géac。他館がコンピュータ化されておらず、また、BCMNと他館がネットワークで結ばれていないので、他館からの利用はまだできず不便である。なお、遡及入力は Jouve 社に外部委託しており、ためにデータを目録ケースごと渡す方法をとっているため、利用者にとっては大変不便である。

1-2] 図書・雑誌の閲覧サービス

まず、基本データを以下に記す。

■開館時間

月曜－金曜 午前9時－午後6時30分(内部学芸員等)
午後2時－午後6時30分(外部の研究者等)

■所蔵資料数

図書約 200,000冊(うち、売り立て目録50,000冊、美術館カタログ、展覧会カタログ等) 逐次刊行物2,100タイトル(うち、1,000カレント・タイトル)

■参考図書概要

<閲覧室(2ème étage)>

開架冊数:約5,000冊[推定](閲覧室1階部分のみ自由接架)

美術館カタログ:

フランス:都市名アルファベット順(全て)

外国:都市名アルファベット順(1960年以降)

都市ガイド: *Les Guides bleus* (全て)

言語辞典、百科事典、美術事典、人名事典、書誌(*Art index*, *Art bibliographies-modern* など現代のものは無し)

雑誌:約50誌(*Bulletin d'information de l'ABF* 等は、職員の部屋に)
[ロンドンのナショナル・ギャラリーのように、現行展覧会カタログなどを机上

に陳列するなどしたい由。LCの*National Union Catalogue*はない。]

〈書庫(3層)〉

参考図書:古いもの、大部のもの(例:*Catalogue des imprimés*)。ラベルマークは“T”

■目録

カード目録:他の国立美術館目録を含む総合目録(他館分は色カード)

著者名・無著者名目録:(副出カードが混配されていないので、利用者がとまどう)

件名目録:独自件名だが統一がとれていない

展覧会カタログ:都市名アルファベット順、年代順の2種

売り立て目録

逐次刊行物目録:他の国立美術館所蔵を含む総合目録

■検索端末

利用者用検索端末:2台(閲覧机上1台はプリンター付き。ただし、一覧のみ可。詳細画面不可)

職員用検索端末:1台(カウンター)

■施設・設備・環境

〈閲覧室〉

面積:約130㎡[推定](fig. 4)

閲覧机:6人用3台 計18人

マイクロ・リーダー・プリンター

回廊:3層(下2層雑誌上1層図書)

天井:ガラスのため明るい

〈書庫〉

最上層は、図書、特に展覧会カタログがある。配列は、8°(小型本)、4°(大型本)に大別、それぞれ書架の上部2段、下部3段をあて、中1段は、4°用に留保してある。従って、一連ごとの左上から右下への配列でなく、連を越えて、横水平に配架されている。床は鉄の簾の子で、足元が悪く、上下が透けて見えるなどの難点がある。

さて、自由接架部分を除き図書館は出納式である。書庫内は、モノグラフ、展覧会カタログ等の大きな種別に分けるものの、そのなかは大きさ別のいわゆる固定配架であり、内部の学芸員で書庫内には入れても、書物の探索はまず不可能である。なお、資料保存書庫スペース狭隘のため、パヴィヨン・デ・ザールの本館のほかに、パヴィヨン・ドゥ・フロールに分室があり、こちらはルヴール美術館絵画部に近いこともあり、絵画・彫刻関連図書を置き、閲覧サービスを行っている。

1-3] アルシーヴ

パヴィヨン・デ・ザールの3ème étage、図書館書庫第2層に接続してアルシーヴがある。

ここには、18世紀末からのルーヴル美術館の行政文書、1793年以降の

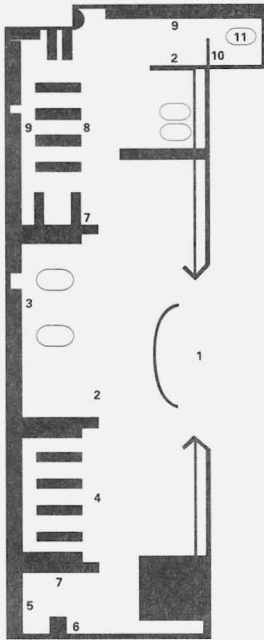


fig. 4
国立美術館図書館・アルシーヴ(中央図書館)閲覧室

国立美術館、DMFの行政文書、1856年以降のRMNの行政文書、コレクション、職員、美術館管理上の文書、ルーヴルにある、または他に移管されたコレクションの台帳などがある。また、Ecole du LouvreのThèseもあり、これは1968年以降ここへ収めることが義務付けられている。

2] フランス美術館局資料センター

この資料センターは、1992年、DMFのある6, rue des Pyramidesに開設され、翌1993年一般に公開された比較的新しい施設である(fig. 5)。国内の美術館発行の年報等美術館行政に直接関連する資料を収集し、提供することを目的としている。前述のDMF図書館とは明確に役割分担しており、ここではもっぱら美術館経営上の諸資料や、図書よりも雑誌新聞等のクリッピングにウェイトをおいている。また、CD-Romやオンラインによる検索サービスを行うなど、アクチュアルな情報センター機能を果している^[19]。(情報システムについては本稿その2において検討する)。現在の所蔵資料は、図書23,000冊、逐次刊行物240カレント・タイトル、各種ファイル1,800件などである。また、特筆すべきは、1995年、国際博物館会議(ICOM)が、1947年より収集してきた各国のミューゼオロジー関係文献の保管館としてこのセンターを指定し、既に資料が移管されていることである。なお、新収資料及び関係雑誌記事索引を含む文献目録 *Bibliographie muséologique* 及び所蔵雑誌目録をコンピュータ出力して簡易製本し、関係機関に配布しており、貴重な資料となっている^[20]。



Plan du centre de documentation

- 1 entrée
- 2 renseignements
- 3 dossiers documentaires
- 4 catalogues
- 5 rapports
- 6 photocopieur
- 7 internet, bases de données
- 8 périodiques
- 9 ouvrages
- 10 vidéomuséum
- 11 pôle multimédia

fig. 5
美術館局資料センター平面図
[出典:美術館局資料センター リー
フレット, 1996]

5. その他の機関の情報資源

1] フランス美術館研究ラボラトリー資料センター

保存修復、保存科学関係図書を置くほか、ラボラトリーで撮影したX線写真、赤外線写真等を集中管理している。図書・カタログ3,000冊、逐次刊行物80カレント・タイトル、論文抜き刷り等3,500点、X線写真等160,000枚を有する。

2] ルーヴル学院図書館

現在は、工事のため、ルーヴルを離れている。美術史一般、考古学、ミューゼオロジー。図書37,000冊(うち、展覧会カタログ9,000冊)、逐次刊行物450タイトル(うち、250カレント・タイトル)がある。

3] 国立造型芸術センター/造形芸術代表部資料センター

現代美術に関する各種情報ファイル(美術館、アート・イン・レジデンス等)が充実しており、広報資料の頒布も行っている。図書・読書局のCentre de documentationも同所にあり、こちらも図書館政策、専門職養成・研修等の各種ファイルが整備されている。

4] 国立文化財学院資料センター

国立文化財学院は、文化省一般行政局の所管にかかる公施設として1990

年に設立された。117, Boulevard St Germain の本部には資料室がある。学院一般については、既に邦文でも紹介があるのでここでは詳述しない^[21]。カリキュラムのなかで資料室が重要な役割を果たしており、教授スタッフと資料室職員による様々なテーマの資料集の共同制作などを行っている。以下、「利用者ガイド」^[22]により資料概要を示す：

分野：文化財に関する行政、管理、法律、経済、保存・修復、普及に関する文献

資料数：図書・展覧会カタログ等5,500冊、雑誌152カレント・タイトル、他に、関連書誌、テーマ別、法律ファイル、語学カセット、文化財関連ビデオ等

5] パリ大学ジャック・ドゥーセ美術・考古学図書館

新国立美術図書館の中核を担う予定の機関で、現在、既に旧国立図書館逐次刊行物閲覧室の一部に参考図書を開架し、閲覧席を設けている。目録室、事務室も同閲覧室の近くにある。以下、同館資料^[23]により資料概要を示す：

資料数：図書450,000冊（うち、売り立て目録100,000冊）、逐次刊行物5,000タイトル（うち、1,500カレント・タイトル）、学位論文3,000件、手稿650件、版画12,500点、銅版画等3,000ファイル、ポスター4,000点、自筆資料2,500件、写真210,000点、ドキュメント・ファイル650件、展覧会招待状等400箱、マイクロフォーム46,000点

6. 国立美術図書館計画

新フランス国立図書館が、セース左岸トルビアク地区に建築され、1996年末には、一部の閲覧室が公開された。リシュリユー街の旧BNには版画・写真部、メダル部、地図部、東洋写本部等が残る。しかし、刊本部を中心にその大部分が移る結果、リシュリユー街の施設には余裕ができる。そこに年来の念願であった国立美術研究所を置き、その中に国立美術図書館を設けるという計画がある。その詳細は、既に邦文文献で詳述されているので^[24]、ここではそれに譲り、1996年時点での幾つかの動きを記すに留めたい。新国立美術館を構成するものとして予定されているのは、国立美術館図書館・アルシーヴ、ジャック・ドゥーセ美術・考古学図書館、エコール・デ・ボザール図書館の一部、アルスナル図書館などであり、これらがリシュリユー街に移転することになる。これについてはなお異論も多く、1996年前半の時点では、アルスナル図書館における反対の動きが顕著であった。

7. 考察

これまで代表例を見てきただけでも、美術関連の様々な情報資料機関が存在し、情報源となっていることがわかる。DMFといった行政部局、美術館、教育機関等においてそれぞれ特色ある資料群をもち、そのことによって、ひとつの情報源^(系)が形造られている。しかもそれが、DMFによる情報資料所蔵機関案内^[25]などで周知する手だても尽くしており、この点で、ごく概括的には情報源の分散の徹底とその調整が図られていると言ってよい。

一方、美術館行政の地方分散(Déconcentration)も近年とみに進んでおり、その概略は次のようになっている:

DMF管下の公施設は、1994年のRMN、ロダン美術館、モロー美術館、グラン・ルーヴル、ルーヴル美術館に加えて、1995年にはヴェルサイユ美術館及びその周辺国有地も行政的公施設(Etablissement public administratif)となった^[26]。しかしこれは、完全な分権ではなく、たとえば、作品購入の権限は依然として文化省にあり、独自に決定できるわけではない。また、RMNは、国立美術館における展覧会計画の調整や出版、販売事業を担っているが、これらも公施設に適用される。なお、公施設における財源の使途、人事等の細部も興味深いがこのここでは割愛する。なお、産業・商業的公施設(Etablissement public industriel et commercial)であるRMN管下にあったEcole du Louvreも高等教育機関としての自立性が勘案され、1996年には行政的公施設となることとなった。他にもオルセー美術館など比較的規模の大きい美術館は、責任センター(Centre de responsabilité)の位置付けが与えられており、1994年に民衆芸術・伝統博物館がこの範疇に入り、現在数館に上っている^[27]。

DMFや国立美術館の行政の枠組みに添って、美術館関連の図書館行政も行われているわけであるが、例えば修復部門におけるように、地方の市立美術館を対象とした業務は行っていない。上にみたように、その対象は国立美術館に限られており、しかも自立できる館は除外している(ただし、これらが、公施設、あるいは責任センターに対応しているわけではない)。従って中央集中の度合は比較的低いといってよい。

ともあれルーヴルにあるBCMNIは、ルーヴル美術館に対してのみならず、すべてではないが他の国立美術館(の図書室)を統括かつサポートしている。上にその収集整理業務の一端を見てきたわけであるが、今日、BCMNIは、現実には、「ルーヴル美術館の7部門(中略)と密接に関っており、美術史図書館というより、美術作品についての図書館である」^[28]。一方で、新国立美術図書館の中核として、田BNに移転することが方向として決まっているという現実もある。となれば、ルーヴル美術館として、美術館内に固有の図書室を置く必要性が論議されるのも無理からぬところである。ルーヴル美術館内には、中央図書館とは別に、絵画、版画素描等の部門毎に資料センターがあり、それぞれ、ドキュメンタリストが配置されている。これは、作品毎の写真、関係記事のクリッピング等からなる資料室であるが、その機能とは別に、近年、絵画・版画素描、彫刻・工芸、考古学の3部門に大別して小規模の図書室を設置し、館内における図書利用の便を確保しようという動きが強まっている。これらにもコンピュータ化を図る必要があるため、新たにコンセルヴァトゥールのポストができ、3箇所を横断し、中央図書館さらには新国立美術図書館とのネットワークを形成しようとしている。ソフトウェアは、図書館と共通のGéacとなる予定である。

ところで、集中収集/整理は、一定の図書館網の形成に貢献しているが、購入希望リストの提出から当該図書が整理されて配布されるまで時間が

かかりすぎる。雑誌もまた、同じルートを辿るので、なおさらである。もっとも、すべての資料がこのルートで収集されるのではなく、ギメ美術館など専門の司書が複数配置され、かつ公開の閲覧室を整備した本格的な機関の場合は、館固有の収集予算をもち、中央図書館経由のもののみならず、専門図書等の購入を直接行っているからである。他方、専門職員がいない小規模館や、専属職員が配置されていても専門教育を受けていない場合(例えば、クリュニー美術館)にはその収集整理業務を中央図書館がサポートするのは理にかなっている。そこで問題は、職員の資質や、配置の如何ということになる。

ここで、あらためて中央図書館の組織図(fig. 3)と職員を見てみると、中枢部に館長の他 Conservateur の肩書きをもつ専門司書が4名おりそれぞれコンピュータ化、収集、分室及び古書、整理を統括している。fig. 3の各部門で専門教育をうけているものは半数以下であり、とりわけ閲覧部門は、5人の Conservateur を含め交代制でサービスにあたっているが、責任ある体制になっていない。伝統的な出納手あるいは監視員といった身分のものが多数を占めているのが実態であり、そのいずれもが有能で利用者から好印象をもたれているにしても、英米のレファレンス・ライブラリー機能といった視点からは、やや物足りない気がする。また、コンピュータ化にしても、その知識のあるものが配置されてはいない。つまり、BCMNMにも他の23館にも専門職を配置する、あるいは専門教育をほどこすことが必要である。専門職員が各館に配置され、整理基準が標準化されて分担目録作業が可能になれば、各館での収集整理と検索網の整備という別のスタイルで、すなわちBCMNMへの業務集中ではなく、BCMNMが調整機関としてその機能をよりよく発揮できるようになろう。逐次刊行物、行政資料等文献資料の分野における情報源の集中/分散の現状は、図書館が専門職員の配置とコンピュータネットワークの構築により、今後いかに分散化の実現を早めうるかが注目される。他方、美術館局資料センターや国立造形芸術センター/造形芸術代表部資料センターなどの新設にみるように、図書では対応できない、アクチュアルな資料情報群にたいするケアが別にとられていることは、別の意味で情報資料の頒布の分散化傾向を示している。国立文化財学院資料センターの存在は、文化の諸領域を統括するものであり、資料分野での集中と分散は、複雑な形で進行している。

新国立美術図書館の行く末は予断を許さないが、多様な分野や資料群を抱え込み、肥大しすぎることは得策ではないであろう。この構想が、今日のデジタル化による情報蓄積技術やインターネット等による情報通信技術の飛躍的進歩を見る前に作られたことを想うとき、今後は可能な限りの資料の分散化とテキスト本文、画像データを含む情報の高速伝達の方が望ましいとも思える。既に1992年時点で、BCMNM館長(当時)は、新国立美術図書館に関して、要約次の3点をあげている^[29]。

- ・隣接分野(民族学、社会学、デザイン等)にまで領域を広げないこと。他に専門図書館が存在する
- ・関係機関、国立図書館の関係部門などと、各種ディレクトリー、書誌の

作成等においてネットワークを形成すべく作業を開始すること

・これまでのBCMの意義を忘れることなく、新国立美術館に発展しても、それを継続すること

ここには、肥大化のデメリットとネットワークの重要性、美術作品に即した関係資料群の蓄積の重要性が述べられており、示唆的である。

美術研究支援情報源の集中と分散に関しては、他に、写真資料や作品データベースなどについて検討しなければならないが、これらは次回(その2)に廻し、それらを含めて総合的にフランス的特質について考察することとする。

[1] 波多野宏之「ボンビドーセンター公共情報図書館:B.P.I.のサービスと戦略 その1-3」、『東京都立中央図書館研究紀要』17-19, 1986-88, 1-117, 1-64, 1-92頁

[2] 波多野宏之「Documentation iconographique: フランスにおける美術・画像ドキュメンテーションの現状」、『日仏図書館研究』12, 1986, 42-54頁

波多野宏之「フランスの美術情報システム」、『人文学と情報処理』14, 1994, 52-56頁

[3] JADSクリアリングハウス編「アート・ドキュメンテーション関連文献目録・暫定予備版(1981-1991)」、『アート・ドキュメンテーション研究』1, 1992. B-3-b FRANCEの項参照 以後同誌(年刊)に各年の関係文献を収載。

[4] 例えば、下記の文献。

『特集:高度情報化時代の文化行政』『文化庁月報』, No.332, 1996. 5, 4-19頁

[5] 例えば、北米美術館協会(ARLIS/NA) 年次大会での論議。下記の文献を参照: Walker, William B. 'Plenary session: National art libraries? in North America?', *Art documentation*, 9(2), 1990. p.76-78.

高階秀爾, 平山郁夫「世界に向けた美術情報の発信基地を: 急務となった本格的美術情報センターの設立」, 『新美術新聞』591, 1991.1.1/11, 6-7頁

波多野宏之「収集・保存からネットワークへ: 諸外国の美術館/情報センター」, 『新美術新聞』591, 1991.1.1/11, 8頁

[6] Musées は、わが国でいう「美術館」と「博物館」の双方を含むが、本稿では、その双方を含むDMFのような場合には、「美術館」を用い、固有名詞としては、その実態に応じて「ルーヴル美術館」「民衆芸術・伝統博物館」のように区別して記す。

[7] établissement public 公施設。

[8] Centre national du livre 1993年、Centre national des lettres より改称。作家や出版活動の支援等を目的とする。複写器機課徴金を公共図書館の資料収集費用に再配分する任務ももつ。

[9] Bibliothèques départementales de prêt. 1992年までは貸出中央図書館(Bibliothèques centrales de prêt)

[10] ここでは市立と称するが、日本で言う市町村、いわゆるCommune[s] 立の意である。

[11] 指定美術館以外の美術館局管下にある美術館のすべて、である。

[12] Ministère de la Culture. Direction de l'administration générale. Département des études et de la prospective. *Chiffres clés 1995; statistiques de la culture*. Paris, La Documentation française, 1996. 153p.

[13] Thompson, Marie-Claude, avec le concours de Catherine Schmitt et Nicole Pico. *Les Sources de l'histoire de l'art en France: répertoire des bibliothèques, centres de documentation et ressources documentaires en art, architecture et archéologie*. Paris, Association des bibliothécaires français (Diffusé par la Documentation française), 1993. 310p.

[14] “Vers une bibliothèque ‘nationale’ des arts?” (Dossier), *Bulletin d'information de l'Association des bibliothécaires français*, 154, 1992. p.33-60

[15] 美術館局、ルーヴル美術館等を中心とし、他は大学、国立図書館等種別の典型を例示するとともに、本稿の論旨に添って機関を選択している。写真資料室、さらに音楽・映画等を含めた芸術・文化関連の資料・情報機関のガイドに下記註16の *Se documenter* がある。掲示したデータは、おおむねこれを参照し、Bibliothèque de l'Ecole du Louvre など異動のあったものは筆者の入手したデータで修正し、また、Bibliothèque d'art et d'archéologie (Fondation Jacques Doucet) などは追加した。

[16] 現BCM館長 Isabelle le Masne de Chermont による説明及び下記の資料による。

Archives du Louvre et des musées nationaux.

Ministère de la culture et de la francophonie. Mission de la recherche et de la technologie de la Direction de l'administration générale et Département de

l'information et de la communication. *Se documenter au Ministère de la culture et de la francophonie*. La Documentation française, 1994. 263p.

なお、1926年までの詳細な歴史については、下記がある。

Dragomir, Janine. *La Bibliothèque du Musée du Louvre; histoire et organisation des origines à 1926*. (La thèse de l'Ecole du Louvre)

[17] ちなみに、具体例を示すと、RMNの刊行する展覧会カタログは80部(オルセー美術館開催分は40部)、展覧会の簡略な解説小冊子 *Petit journal des grande expositions* は80部、300フラン以上の学術刊行物は15部、同300フラン以下は20となっており、限られた数しか交換用にあてられていない。さらに、*Revue du Louvre*にいたっては、中央図書館が84部を交換用に買い取っている対応している。従って、こうした交換資料は、残念ながら当館のような小規模館にまではまわってこないわけである。

[18] 国立西洋美術館もこの恩恵にあずかって、欠号補充している。また、今回の滞在にあたっては、複本書架より直接選択させていただいた。

[19] この項の記述は、同センター館長 Odile Tarrete 女史からの聞き取り、及び下記資料による。Tarrete, Odile. “Le Centre de documentation de tous les musées de France”, *Musées & collections publiques de France*, 209, 1995. p.50-54.

Tarrete, Odile. “Le Centre de documentation de la Direction des musées de France”, *Bulletin d'information de l'Association des bibliothécaires français*, 168, 1995. p.97-102.

[20] ‘*Bibliographie muséologique*’, trimestrielle.

‘*Liste des périodiques au Centre de documentation de la Direction des musées de France*’, trimestrielle.

[21] 西野嘉章『博物館学：フランスの文化と戦略』東京大学出版会, 1995. 203, ivp.

なお、同学院の刊行物に下記がある。

Ecole nationale du patrimoine. 28p.

Ecole nationale du patrimoine: guide des études. 1994. 52p.

L'Ecole nationale du patrimoine: mai 1990-mai 1995. 1995. 32p.

[22] *Centre de documentation: guide de l'utilisateur*. 4e éd. mise à jour, janvier 1996. 21p.

[23] *La Bibliothèque d'art et d'archéologie (Fondation Jacques Doucet): origines-collections-la Bibliothèque aujourd'hui*. Juillet 1994. 27p.

[24] *op.cit.* 西野(註21)

[25] *op.cit.* *Se documenter*. (註16)

[26] ヴェルサイユ(宮)美術館およびトリアノン、DMFの、周辺国有地は文化財局の所管であったものを、一括して、その運用責任を新たな公施設の長のもとにおいたもの。

[27] 公施設、責任センター等の詳細については下記を参照のこと。

Ministère de la culture. Direction des musées de France. *Rapport d'activité 1994*. [1996] 208p.

[28] Léri, Jean-Marc. “La Bibliothèque des musées nationaux au Louvre”, *Bulletin d'information de l'Association des bibliothécaires français*, 154, 1992. p.40.

[29] *ibid.*

Centralization and Dispersal of Information Resources for Art Research:
Characteristics of French Museums, Libraries and Information Systems -1
[Abstract]

by Hiroyuki Hatano

The various reasons underlying the attitude taken in the accumulation and management of information resources for art research and their presentation for use rely largely on the special characteristics of the art museums and related organs involved, their administrative environment, period and regional characteristics. Thus, the state of the centralization and dispersal of institutions which have information resources varies greatly by country, and further there are also differences brought about by the form of the information collected. This article is based on a survey of actual conditions at the various facilities administered by government organs which possess information resources, centering on the Bibliothèque et archives des musées nationaux, Ministère de la Culture, and the Centre de documentation de la Direction des musées de France, and thereby elucidates their specifically French characteristics. In general, we can see that groups of resources with special characteristics are dispersed, at the same time that they are formed in a single information resource "lineage," and we can observe how an understanding of, and publication of information on the locations of these materials has heightened their accessibility in the form of dispersed management which suits diverse needs. And yet regardless of the fact that in recent years there has been a policy of division of authority by region and a dispersal into regional areas, a centralized library service still exists, and there are also plans to establish a new national art library. Thus there exists a strong trend toward the physical centralization of information resources. In the future, the appropriate placement of specialized staff members, and advances in the use of catalogue database networks will surely lead to changes in the attitude towards centralization and dispersal. Photographic materials and information systems will be examined in the next issue.